

## 未来ノート

-202Xの君へ-

## 野球

## 大谷翔平

野球との出会い

教えずきない父

夢も目標も書く

ケガをした時に

## 身近に道具 自然と興味

いつも体を動かしている。プロ野球・日本ハムの大谷翔平(23)は、そんな子どもだった。「お弁当をつくって、近くの公園や河川敷に行つて。要は、いかにお金をかけずに遊ぼうか、っていう」と、母の加代子さんは振り返る。

3人きょうだいの末っ子は、とにかく元気。二つ上

の姉、結香さんが買つてもらった自転車には先に乗れるようになり、転んだのか、どこかにぶつけたの

か、姉が一度も乗っていないのに壊したこともある。野球を始めたのは、小学2

年の秋。地域の硬式野球チームに入ったときだ。

「野球を『やれ』とは言われていません。自然とやっています」

父の徹さんは、社会人野球の元選手で、7学年上の

兄、龍太さんも野球をしていた。身の回りにバットやグラブがあると、興味を持つのは当然だったのかも知れない。

野球と出会う前は、二つのスポーツに親しんだ。まず、バドミントン。これは、高校総体や国体に出場

経験がある加代子さんの影響が大きい。大谷が生まれたころは趣味として続けており、練習にもよく連れて

行っていたという。幼稚園の年長になると、

スイミングスクールにも通った。後に岩手・花巻東高

校で先輩になる佐々木大樹さんは、一緒にバドミントンや水泳をしていた幼なじみ。「翔平のスマッシュは速いし、水泳も僕が6年生

のときは、4年生の翔平が同じコースで泳いでいました。運動能力の高さを、間近で感じていた。

「バドミントンも水泳も好きでやっていたので、どの道に進んでもおかしな

かったとは思いますが、一番最初にみたときに、か

っこいいな、と思ったのは野球でした。一番自信もありましたし」

ただ、タイミングを計って羽根を打つバドミントンと、体力づくりや関節を柔らかくするにはもってこいの水泳。どちらも、野球とは無縁ではなかった。

9月12日の試合で力投する大谷。白井伸洋撮影



小学生のときの大谷。水泳も得意で、学校を代表して大会に出ている大谷加代子さん提供

(山下弘展)

◆「未来ノート」スクラップブックは、全国のASA(朝日新聞販売所)でお配りしています。インターネットの特設ページではイベントやスクラップブックについて詳しく紹介しています。「未来ノート 朝日新聞」で検索してください。

©朝日新聞社 無断複製転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。